

@ M's SQUARE

2026年2月6日

「第4回さいたま国際芸術祭」開催決定記念『浅見俊哉作品展』の開催について ～地元中学生と共同制作した作品などを展示します～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）は、2026年2月22日（日）から3月1日（日）まで、本店ビルの地域創生スペース「M's SQUARE」にて、「第4回さいたま国際芸術祭」の開催決定を記念した『浅見俊哉作品展』を開催いたしますので、お知らせします。

「さいたま国際芸術祭」は文化芸術都市としてのさいたま市の魅力を創造・発信していく芸術の祭典で、国内外のアーティストによる現代美術、音楽、ダンス、演劇など多彩なプログラムが市内各地で展開され、「共につくる、参加する」という市民参加のコンセプトが大きな特徴となっております。当行はさいたま市に本店を置く地元銀行として、2016年の第1回から実行委員会に参画し、地域創生スペースを用いたPRや関連作品の展示・ワークショップ開催など芸術祭への貢献に努めてまいりました。

今般の『浅見俊哉作品展』は、2027年秋の第4回芸術祭開催決定を受け、開催に向けた機運を醸成し、市民の皆さまをはじめ幅広い方々に芸術に触れ合う機会を提供することを企図しております。

浅見俊哉氏はカメラを使わない「フォトグラム（青写真）」という独特の技法で制作活動を行い、近年注目を集めているアーティストで、今回の作品展では同氏がさいたま市立桜木中学校美術工芸部の生徒たちとワークショップを行い共同制作した作品も展示いたします。

また、展示期間中には関連企画として、一般の方々が参加できる「フォトグラム体験ワークショップ」のほか、作品解説と地域の文化芸術活動に関する対談を行う「ギャラリートーク＆シンポジウム」を開催します。

加えて、地域商社「むさしの未来パートナーズ」のECサイト「IBUSHIGIN公式ストア」にて、同氏の作品を購入できる特設ページを開設いたします。

《浅見俊哉作品展『青の未来図—青写真で描く、関係性とこれから、』概要》

会場	本店ビル2階 地域創生スペース「M's SQUARE」 (さいたま市大宮区桜木町1-10-8)		
内容	浅見俊哉氏のフォトグラム作品展示	2月22日（日）～3月1日（日） 9:00～17:00	
	さいたま市立桜木中学校との ワークショップ	2月21日（土） 10:00～16:00 (制作した作品を22日より展示)	
	フォトグラム体験ワークショップ 「影をつかまえる」		10:00～12:00
	ギャラリートーク＆シンポジウム 「地域の文化芸術活動と地域の資産、 そして未来について語り合う」	2月23日（月・祝）	15:00～16:30
	「IBUSHIGIN公式ストア」での特設ページ開設（3月31日（火）まで） https://mmp-mbkg-ibushigin.en-jine.com/stores/ec3048		
その他	浅見俊哉氏のプロフィールなど詳細についてはホームページをご覧ください。 https://asa19821206.wixsite.com/shunya-asami	以上	

報道機関からのお問い合わせ先
地域サポート部 地域価値創造室 郷 大助
TEL (048) 641-6111 (代)

青の未来図

—青写真で描く、関係性とこれから、

Blueprints: Relationships and the Future

浅見俊哉作品展

Shunya Asami Exhibition

2026 2/22-3/1

9:00-17:00

武蔵野銀行 M's SQUARE

青の未来図－青写真で描く、関係性とこれから、

Blueprints: Relationships and the Future

本展は、さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト「創発inさいたま」において培われた、地域と作家との関係性を継続・発展させる取り組みとして実施する展覧会です。銀行という「資産」を扱う場を舞台に、美術を通して、広い意味での「地域の資産」のあり方を改めて見つめ直すことを目的とします。銀行が日常的に取り扱う金融資産に加え、人と人とのつながり、地域の歴史や文化財、独自性を生かした活動など、数値化されにくい価値もまた、社会や地域を支える重要な資産であると本展は捉えます。

展示の中心となる「青写真」は、完成形を示すものではなく、未来に向けた「今」という時間を起点とする設計図としての表現です。そこには、時間とともに移りゆく揺らぎや変化、更新の可能性が描き出されます。本展では、作家がこれまでに制作してきた青写真作品の中から、「関係性」と「未来」をテーマとする作品を展示し、さまざまな関係性を可視化することを試みます。あわせて、近隣の中学生や、芸術祭を通じてつながったサポーターとの共同制作によって生まれた作品も紹介します。次世代を担う若者や、文化芸術活動を支える人々の創造力を生かしながら展開されていく美術表現が、「新たな地域の関係性＝地域の資産」の姿を浮かび上がらせるとともに、創造の過程から生まれる関係性そのものも、未来へと引き継がれる資産となることを願っています。



本展の展示作品の一部やオリジナルアイテムは、「IBUSHIGIN」公式ストア（右の2次元コード読み取り）から購入が可能です。作品購入を通して、文化活動を支え、日常を彩る体験をこの機会に味わってみませんか？
(購入可能期間：2026.2/20-3/31)



fig.1



fig.2

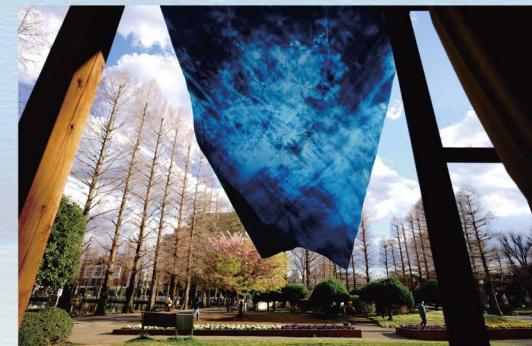


fig.3



fig.4



fig.5

fig.1:『現在の青図 - 社会の皮膚 -』シリーズより

fig.2:『呼吸する影 - 被爆樹木 -』シリーズより

fig.3:『現在の青図 - 記憶の窓 - @別所沼公園ヒアシンスハウス』より

fig.4:『BODY PRINT ACTION』シリーズより

fig.5:『現在の青図 - 瑛九の空間 -』シリーズより

展覧会 関連企画

(1) 青写真体験ワークショップ

「影をつかまえる」

2026.2/23 (月・祝) 10:00-12:00

カメラを使わない青写真の制作体験、身の回りのものや大切なものをモチーフにA4サイズの作品制作を行います。参加費 ¥1000



浅見俊哉 Shunya.ASAMAI

美術家・写真作家・造形ワークショップデザイナー

1982年東京都葛飾区生まれ

2006年文教大学教育学部美術専修卒業



Website

2004年頃から、「時間」と「記憶」をテーマに、ものを直接感光面に置き一定の太陽光を当てることで撮られる写真（フォトグラム）を制作。代表作にヒロシマの被爆樹木を2012年より毎年撮り続ける『呼吸する影 - 被爆樹木のフォトグラム -』がある。「つくること」と「つたえること」の両輪を持って活動する事が自身の芸術活動であると考え、制作者から鑑賞者への一方向のアートではなく、主にワークショップやアートプロジェクトを通して相互に関わりの持てる「場」や「時間」を精力的につくりだしている。

近年では、「さいたま国際芸術祭2020・2023」で、市民を担当しアートプロジェクトを展開した。2025年には、「青砥青写真研究所 -AOAOLAB-」を設立し、青写真の表現の魅力を広く発信している。

共同制作：さいたま市立桜木中学校美術工芸部

本展覧会の共同制作プロジェクトとして、さいたま市立桜木中学校美術工芸部の生徒と「関係性」をテーマに、等身大の青写真「BODY PRINT」の制作を2026.2/21(土)に実施。

会場：武蔵野銀行 M's SQUARE

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-10-8 武蔵野銀行本社ビル 2F. (大宮駅西口から徒歩約7分) 会場へのアクセス▶

主催：武蔵野銀行 制作協力：むさしの未来パートナーズ株式会社・さいたま市立桜木中学校美術工芸部

